

# 「生き方探求・チャレンジ体験」体験記

本学図書館では、平成19年9月3日(月)から9月7日(金)にかけて中学生が社会体験活動に取り組む「生き方探求・チャレンジ体験」に協力し、中学生2名を受け入れました。(詳細は7頁に記載)これは、その中学生の体験記です。

## 初めての職場体験

京都市立衣笠中学校 2年 渡辺 慎平

僕は、「生き方探求・チャレンジ体験」で京都外国語大学の図書館へ来ました。初日は図書館の話を聞き実際に館内を見学しました。中学校とは比べものにならないくらい広く、本の数の多さにすごく驚きました。その中でも洋書が多く、英語だけではなく、スペイン語やポルトガル語などがありました。これだけたくさんの本をどうやって利用者に知らせるかというそれはデータベースとホームページです。



僕は、ホームページの変更をしました。その変更は簡単だと思っていました。けれど、実際はすごく大変な作業でした。まず、ホームページの変更は、ソースといわれるものを新しく変えることです。ソースを見ると、英語ばかりで何が書いてあるかさっぱりわかりません。それを見て思ったことは、一行作るのも多くのデータを入力しなければならないんだなと思いました。とくに、写真を貼ることがものすごくむずかしいと思っていましたが、写真の表題を打つだけでいいということなので簡単にできました。けれど、最初から作ろうとすれば、大変な作業だということがわかりました。

これ以外にも図書館のたくさんの仕事を手伝いましたが、ホームページを変更したことが心に残っています。

チャレンジ体験で学んだたくさんのことをこれからのいろいろなことに生かしたいです。

## 社会を知るための体験

京都市立衣笠中学校 2年 牟田 吉昌

僕は、「生き方探求・チャレンジ体験」という学校の活動で京都外国語大学の付属図書館でお世話になりました。ここに来る最初の日はすごく緊張しました。「どんな図書館だろう」という疑問の通り、ここに来てとても驚きました。それはこのこの図書は49万冊以上で、またコンピュータの端末はとても多いのです。特にアジア図書館を見ると、ここは僕の住んでいた中国でも見たことのない本が多くありました。



初めは、図書館の仕事は簡単そうだと思っていました。しかし、本の発注や受入は大変細かい仕事でした。本の原簿登録とデータの入力、分類が一番正確さが必要な仕事だと思います。また、本の整理は疲れたけれども楽しかったです。最も難しいことは、やはり本の管理と本を探すことです。

僕が最も関心を持っていたことは本の貸し出しです。最初はとても緊張していました。ミスをして図書館の人から直してもらいました。でも何回もやっているうちにできるようになりました。また、図書館のホームページを作りました。写真を撮って画面にのせる。そしてデータベースの中で著者名や書名を利用者が調べやすくすることは一生懸命にやりました。わかりにくいけれど、楽しかったです。

図書館で働くことで、資料を探すことを知り、社会人になるための良い体験だったと思います。